

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	平成29年12月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の体調や精神面の変化については、定期的にご家族に報告する機会を設けており、ご家族様との距離感を縮められるよう努めている。また、生活の様子を写真付きのお便りと手紙と一緒に、毎月送っている。誕生日には出来る限り外出し、好きな食べ物を選んでもらう機会にしている。訪問歯科やマッサージ、移動パンやフラワーアレンジメント等、地域資源をできるだけ活用し、職員と家族だけの社会にならないように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして12年、郊外の緑豊かな田園の中に立地している。目の前に幼稚園があり、天気の良い日の散歩では、園庭に入り園児と交流している。ひな祭りや運動会の予行演習に招待されたりして、入居者の楽しみのひとつとなっている。リビングは、それぞれ、フロアごとに特色を出し、毎月飾り付けを変えて、季節を感じるようにしている。食事も、カロリー計算された、献立表があるが、食材は、地元で調達して、お一人ひとりの好みに配慮した食事を提供している。また、医療連携でも、近隣の内科系のクリニックの提携の他、精神科医とも提携していて、それぞれ月2回の訪問診察がある。夜間も24時間オンコール体制で、看護師がキメ細かく対応していて安心の体制となっている。希望者には、訪問歯科も来訪している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット毎に介護方針を定め、それに基づいた介護ができるよう、取り組んでいる。	法人の理念を中心に、各ユニットの理念・目標を掲げている。各ユニットの理念は、職員から意見を吸い上げ作成している。全体会議やフロアー会議で職員に周知徹底している。各フロアーにも掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やごみ捨てがてら、近隣の方とご挨拶を交わしたりお花を頂いたり、少ないながら関わりを持っている。	オープンして12年、日々の散歩の中で、目の前の幼稚園とは、ひな祭り会や運動会の予行演習などに招待され、子供たちと楽しく交流している。また、ボランティアでは、大正琴、日本舞踊、フラワーアレンジメント等で喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や問い合わせを頂いた方を中心に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や町内会長、行政の方の意見を伺い、反映するよう心掛けている。	2か月に1回定期開催している。市役所の担当、地域包括支援センターの職員、家族などで、自治会長にも声掛けして参加頂いている。活動報告の他に、ノロウイルス対策、他のグループホームの状況等意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所パンフレットを届ける際に、センターの状況の報告を行っている。	運営推進会議の議事録をはじめ、パンフレットや変更届等、市の窓口を持参している。また、市の会議室において、市の担当者も出席した、地域密着事業者の連絡会も定期的に開かれ、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に繋がる不適切なケアを予防できるよう、日々の申し送りや会議を用いて意識づけを行っている。玄関に関しては、防犯や事故防止の観点から施錠している。	年1回は、必ず全体会議で資料配布して、研修を実施している。日々の支援の中でも、接遇マナーやスピーチロック、言葉使いなど不適切な対応があれば、その都度注意し合っている。入居者本位で、職員都合でケアしないように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、全体会議の場で研修を行っている。また、不適切なケアについても、会議を中心に予防できるよう発信している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人の研修者を毎年数名受け入れている。具体的な研修等は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階から、出来る限り具体的な説明を行い、理解して頂けるよう努めている。相談等があった際も対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の皆さんからは、普段の関わりの中から、ご家族様は主に来訪時に伺うように働きかけている。今後、ご意見を伺うアンケートを実施したいと考えている。	家族の来訪時、運営推進会議、行事に参加されたとき等、さまざま意見や要望を聞く機会を設けている。また、「そよ風通信」を毎月発信、居室担当も日常生活や健康状態を記した手紙を出している。	様々な、機会に意見や要望を聞くようにしているが、じっくり面談が出来ないとのこと。今年度は、家族アンケートなどを実施して、家族からの意見や要望をくみ取る、取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の関わりの中で、職員個々と会話する機会を設け、意見や考えを確認し、出来る内容に関しては反映するようにしている。	月1回の全体会議、フロアー会議で、意見を出し合い、意見や要望をくみ取っている。また、夜勤時に、個別面談も行い、意見交換している。具体的には、日々の仕事で、効率よく進める改善事項などの提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々との面談を通じ、目標設定や給与見直し、労働条件の変更など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットの会議に参加し、意識向上やケアの見直しについて発信している。研修についての発信は行うが、参加は個々に委ねている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他センターの職員に支援に来てもらい、その中で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や実調の際に、出来るだけ過去の生活について伺い、その方の理解ができるように情報を引き出している。その内容を生かして、安心して生活できる土台作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時を中心に、ご家族様の現状理解に努め、今後の生活についてもサポートできるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当センターの利用だけに限らず、その方にあったサービスが受けられるよう、アドバイスを行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆さんができることを見極め、「してもらおう」だけの立場にならないよう、生活の中で役割を持ってもらうよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の皆さんに変化があった際は、できる限り早めに相談し、意見を伺うようにしている。また、行事への参加を通してともに関わられるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の方の来訪を中心に、なじみの関係を継続して頂いている。自宅やご家族様宅への外出も促すようにし、施設だけにならないように努めている。	近隣からの入居者が多く、親戚や、友人の来訪も多い。図書館に月1度行く人、入院中の息子さんに会いに行く等、個別の支援も行っている。また、家族が面会に来れば、一緒に食事や買い物を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々との関わりはもちろんのこと、レクリエーションや外出、日々の家事をともに分担して取り組んで頂き、自然に関わりが持てるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等に移られた際は、不定期だが訪問するようにしている。ご家族様から相談の連絡があった際も、適宜対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居後にも、個々の皆さんから話を伺い、生活しやすいよう、不満がたまり過ぎないように努めている。意見が伝えられない方については、健在の頃のご意見を反映するようにしている。	事業所見学時や、入居が決まった時など、自宅を訪問し、家族から、過去の生活歴、趣味、嗜好、嫌いな物等ざくばらんに聞き取っている。入居後は、職員との会話のなかから、願いや希望を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後、ご本人やご家族様から適宜話を伺い、今の生活に生かせるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報を元に生活を支援している。日々の中での現状把握に努め、変化があった際は、毎月の会議を中心に情報共有し直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様からは事前に意見を伺うようにし、適宜医師等の意見も取り入れた介護計画を作成している。	月1回のフロアー会議でケアカンファレンスを実施している。バイタル表、支援経過記録、業務日誌、申し送りノート等を持ち寄り、職員同士意見を出し合い、チームでプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を中心に、ひやりはっとノートや申し送りノートも用いて、入居者の皆さんの現状把握に努め、介護計画の見直しを適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では、センターで提供できるサービスにとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージやボランティア等を必要な方に提供できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の内容を、適宜ご家族様に報告し、医療に関して不安を持たれることのないよう取り組んでいる。質問等があった際は、職員もしくはかかりつけ医と直接やりとりをして頂き、その解消に努めている。	近隣の内科クリニック及び精神科医と提携している。内科と精神科がそれぞれ月2回診療に来ている。24時間オンコール体制があり、看護師が対応している。また、希望者には、訪問歯科が毎週来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護やセンターで看護師の配置は行っていない。往診先の看護師と、入居者の皆さんの健康面で相談に応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はその病院の医師もしくは看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を行っている。入退院時に、ソーシャルワーカーを中心に継続したかわりが持てるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には終末期のケアは行えないが、ご本人やご家族様が不安にならないよう、往診医と早めに意見交換を行い、早めに医師を交えた医療相談を実施してる。	入居時、看取りは、困難であることを、詳細説明している。ただし、重度化したとき、家族やかかりつけ医とキメ細かく打ち合わせをして、出来ること出来ないことを、家族が理解、納得頂いたときは看取りを行っている。看取りの経験は2例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、職員個々の力量に応じて指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、その方法について職員が身につけられるよう取り組んでいる。地域との連携は今後取り組んでいきたい。	年2回避難訓練を実施している。自衛で、消火、誘導、通報訓練を行っている。各ユニットごとに連絡網を作り、管理者につながる仕組みにしている。なお、飲料水、レトルト食品、缶詰等3日分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持については、日々の申し送りや職員個々に説明している。入居者の皆さんの情報の取り扱いについても注意して行うよう取り組んでいる。言葉かけが不適切にならないよう、日々指導を行っている。	書類は、キャビネットで保管、施錠管理、パソコンは、IDパスワードで管理して、管理者、事務員のみ使用。顔写真の使用は、書面で許可を得ている。プライバシー面は、特に排泄について、きめ細かく配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その機会がなくならないよう、入居者の皆さんの声を聴くよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不健康過ぎない限りにおいて、その方の生活のペースを尊重するようにしている。健康に生活していく上で、散歩や体操等、体を動かす機会も無理のないようお誘いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた洋服は、入居時や適宜、ご家族様に用意して頂いている。外出時やお祝い事の際は、女性は化粧を、男性はネクタイやジャケット等を着用して頂き、普段との違いを意識して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、下ごしらえ、食器の洗浄、食器拭き、片付け等、役割分担をして生活支援している。	食材は、地元で調達、献立表に従い、職員が作っている。食事の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなど、みんなで行っている。季節を感じる、正月のおせち、ひな祭りのちらし寿司等楽しんだり、外食も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の食事が進まない方には、適宜捕食を。苦手な場合や健康上避ける必要のある食材は、個別に変更し対応している。水分は、最低1,000ccの摂取を意識し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行わない方もいるが、個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄ができるよう、個々のタイミングでトイレへお誘いし、排泄につなげられるよう努めている。	排泄チェック表を作成。食事前、食事後などにトイレ誘導している。感覚のわからない人は、定時に誘導している。夜間帯は、自立の人は見守り、それぞれに合わせ、パッド交換している。ポータブル使用の人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、個々に好きな飲み物や、季節ごとに種類を増やしている。便秘がちな方と、館内を中心に歩行したり、体操したりと排便に繋がる対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。皆さんおおむね、2～3日に一度の入浴になることが多い。	時間帯は、昼食後概ね14時から17時の間としている。入りたい人はいつでも入れる。入浴嫌いな人は、担当を変えたりしている。菖蒲、ゆず湯、入浴剤も入れて、職員と会話したり、歌を歌ったりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一緒に食事やレク、お茶する時間以外は、居室で休んだり、リビングで寛げるよう音楽をかけたりし、動と静の時間を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての知識を深められるよう指導している。体調や精神面での変化があれば随時医師に報告し、服薬の見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が中心になりがちではあるが、配膳、盛り付け、片付けや、洗濯、掃除などで役割を持ってもらっている。定期的に図書館に出掛けたり、移動パンやフラワーアレンジメントも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての対応は難しくなっているため、前もって外出計画を立てて支援するようにしている。ご家族様と外食等の機会を持っていただけるよう、話もしている。	天気の良い日は、散歩がてら、ゴミ捨てをしたり、向かいの幼稚園の園庭に行き、園児と交流している。近くのコンビニや農産販売所に行くのも楽しみのひとつになっている。春には、近くの公園のお花見、秋には、紅葉狩りにも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では、現金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望は時々聞かれるため、事前にご家族様の了承を取ったうえで対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑然として混乱したり、使い勝手が悪くならないよう、整理整頓を意識するようにしている。季節ごとに室内飾りも変更し、その作成も一緒に行うようにしている。	リビングは、全面ガラス張りで、非常に明るい。空調、加湿器は備え付けられていて、快適に過ごしている。夕方は、窓側にソファを並べ、ゆったりと音楽などを聴いている。壁の飾りつけは、毎月変えて、季節の変化を感じ取っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席の他に、ソファや廊下の奥に椅子を置き、くついたり離れたりしやすいように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に極力、使い慣れた物を持ち込んで頂くように説明している。殺風景な部屋にならないよう、ご家族と相談して決めたりもしている。	空調、防災カーテン、クローゼットは備え付けられている。持ち込み品は、危険物以外は自由で、趣味の物、嗜好品、テレビ、仏壇など持ち込んでいる。また、茶碗、汁椀、お箸は自宅で使っていたものを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内空間が入居者の皆さんにとって、わかりやすいようにするには課題がある。動線や物の配置を適宜見直す必要がある。		